

「男女混合名簿」は本当に急増したか！？

14.5.24 歳

私たち「ばってんうーまんの会」では、1990年5月、当時の本島長崎市長に対して、
男女混合名簿を導入するよう陳情書を提出しました。それからことあるごと
に市教委や県教委に対して混合名簿の必要性和導入を何回となく訴えてきました。し
かし行政は、「県小中学校処務規則（案）」の中の名簿モデルや事務処理の利便性を根拠
に私たちの申し入れに難色を示し続けました。またほとんどの学校の管理職は、そのよ
うな教育行政の姿勢に追随して、現場の先生方が混合名簿を取り組むことを妨害しよ
うとさえしました。

それから12年。男女平等の実現は徐々にではありますが、やはり確実に進んできま
した。1999年6月に成立した「男女共同参画社会基本法」はその集大成といえるでし
ょう。そして今年の3月末に下記のような新聞記事が掲載されました。

2002年(平成14年)3月29日 金曜日 長崎新聞

男女混合名簿

急増

県教委調べ

小、中学校11校⇒174校
高校は5校にとどまる

これまで義務付けていた
男女別名簿の使用を規
則から削除。名簿を男
女別か混合式にするか

公の名簿に混合式を導
入する動きが加速しそ
うだ。

県教委によると、県
立高校の名簿様式も各
校の判断に委ねられ
ているという。しかし、
調査では男女混合名簿
を出席簿など公の名簿
に使っているのは、長
崎高などの定時制や、長
崎水産高や島原農高な
ど女子生徒が著しく少
ない学校に限られてい
た。

県教委は「男女混合
名簿は奨励も規制もし
ていない。名簿に関係
なく学校教育の中で男
女共同参画社会への認
識を高めるよう指導し
ている」と強調。長崎
市内の県立高校長は、
「高校では小、中学校
に比べ身体測定の数値
など男女別の統計処理
をする事務が多く、混
合式では不便なことが
普及しにくい要因とな
っている」と話してい
る。

普及の背景に「各校一任」

県教委は、男女共同参画社会に対する子
もたちの情熱教育を目的に県内の公立小、中
学校などで導入が進む「男女混合名簿」の普
及状況について、調査結果をまとめた。それ
によると、出席簿など公の名簿に男女混合名
簿を使用している公立小、中学校は計百七十
四校で、全体の28.2%を占めた。一方、県
立高校では五校、6.5%にとどまり、小、
中学校との格差が浮き彫りになった。

公の名簿に男女混合
式を導入している公立
小、中学校は前回の調
査より、全体の八割を超え
た。

は各校に一任したこと
がある。島原、諫早、
大村などの各市教委も
これに追随、今後も県
内の公立小、中学校で

十一校から急増。成績
評価などで教師が私的
に使う名簿などを含め
世保の両市教委が、こ

普及の背景には、二
〇〇〇年度に長崎、佐
世保の両市教委が、こ

この記事によると、県教委が、「男女共同参画社会に対する情操教育を目的に」、『男女混合名簿』の普及率について県内の公立小中学校と県立高校を対象に調査したところ、出席簿などの公の名簿に男女混合名簿を使用している公立小中学校は計174校で、全体の28.2%を占め、県立高校では5校、6.5%という結果になった。前回(1999年)の調査の計11校から急増した。普及の背景には、2000年度に長崎、佐世保の両市教委が、これまで義務付けていた男女別の名簿の使用を規則から削除。名簿を男女別か混合かは各校に一任したことがある。一方、県立高校の名簿様式も各校の判断にゆだねられているが、混合名簿を使用しているのは鳴滝高などの定時制や長崎水産高や島原農高など女子生徒が著しく少ない学校に限られている。

この記事を読んだ時、「長崎もついに混合名簿が広がってきたのか。10年以上もかかってやっと私たちの主張が実現してきたなあ。」とうれしい気持ちになったのですが、それから二週間ほどたったとき、市内のある中学校で昨年実施したばかりの混合名簿を今年はやめてしまって、以前の男女別になってしまったという話を聞きました。その理由ははっきりわからないでいたのですが、その後たまたまある会合で知り合った別の中学校の教員と話す機会があって、混合名簿に関する中学校の事情が少しわかりました。つまり中学校では、体育など男女別で授業を実施している教科もあり、教科担任制のもとでは一律に混合にしにくい。また男女別の制服や体操服などをはじめとして、集会時における整列も男女別だし、体育祭の行進も男女別というように、学校生活の隅々にまで男女で分けることが行き渡っている。そのような中で、男女平等の理念を持った教員たちが混合名簿を根気強く主張して、やっと実施にこぎつけたものの、やはり現場での混乱がおこり、元に戻ったのではないかと。また校長などの管理職は以前のように混合名簿に反対しなくなった、というより率先して混合にしたいという管理職も多くなった。中学校で混合に反対するのは今は現場の先生たちの方だということでした。

しかし話をしてくれた教員は「混合名簿にする事が最終目的ではなく、中学校のあらゆる分野で男女に分けることが当たり前という状況を変えることが大事なのだから、やはり混合名簿を実現していく努力をしていきたい。男女別に戻った学校でもまた新しい先生たちが混合を主張しているということも聞くので、時間はかかるだろうが、混合名簿は必ず広がるだろう。」と語ってくれました。

こうしてみると先の新聞記事の数字は小中学校をひとまとめにしたものなので、中学校だけの実施率はもっと低く、高校とあまり変わらないかもしれない。県教委も義務教育だからといって小中学校をひとくくりにししないで小学校、中学校別の調査結果を発表してほしい。また新聞も「急増」という見出しの中身については、もう少し実態を調査する必要があるのではないだろうか。

「男女共同参画社会基本法」施行後も平気？

くわたし作るひと、ぼく 食べるひと>の再生コマーシャルはダメ

ちょっと一昔、まだ基本法も出来ていなかったころ、「私つくる人、ぼく食べる人」というコマーシャルが出て社会的批判を浴びたことがあった。社会がいつまでこういう性別役割分業を肯定するのかという危機感はその後の基本法制定へのエネルギーの一端を担ったことは間違いない。基本法が施行されて2年を経過しようとしている今、そして地方条例も各地に出来つつあるというのにまだ事業者たる企業はみずからの姿勢をただしていないのだろうか。

会社名は<ふじっ子>、「あったかごはんにふじっこ煮」ということで昼のおもいきりテレビ放映時にでてくるコマーシャルで、問題の内容は次のとおりである。

時間設定は朝、小4ぐらいの娘っこが台所で朝食の支度をしながら父親を呼ぶ。

「パパ、遅れますよ」

パジャマ姿で現れた父親。席について食べ始めた父親に対して、

「お仕事たいへんそうですね。」

今までは妻に言わせていたセリフを吐かせる。

次はこの会社のこんぶの佃煮をふんだんに盛り込んだおにぎりをつくり弁当をこしらえている場面。最後が急に現れた母親(専業主婦とおぼしき)と玄関に並んで、出勤する父親を元氣いっぱいの笑顔で見送る場面である。

このコマーシャルは今までに見られた「夫婦間役割分業」助長コマーシャルより罪は大きい。21世紀に生きる子供たちは成人した暁にはたとえ結婚しても「ボク食べる人」に足を引っ張られることなく仕事や趣味に挑戦していける筈ではなかったのか。「働く人」に男性の姿をあてはめ、「がんばって!」と送り出す姿に女の子をあてはめる。子ども達の未来に旧態依然とした固定概念をかぶせた「ふじっ子」の企業姿勢を糾弾したい。

こんなコマーシャルがあったらいいな

上の場面をそっくり頂こう。

かいがいしく朝食を作っているむすこ。

“ママ!起きてよ。朝ごはんできたよ~” “ハーイ、ありがとネ”

パジャマ姿で降りてきたママにお給仕しながら

“お仕事大変そうだね”と語りかける息子。

ああ、こう書いただけで有難くてウルウルしてきた。でもこんなコマーシャルだったら瞠目ですね。



どこにも困りものミス好きのおじさんたち

私たちは会員以外にも公的女性センターやグループに会報を送っているがその中の1つ「女性ニュース」から事務局へ本会報の記事掲載ということで下記の記事が寄せられた。ミス好きの市町村はまだ後を絶たずもぐらたたきのようなものだからだから、時には迫及の手を休めてしまいがちだが、やっぱりやらねばならぬ。

そういえば山口県の女性たちが、県が施行した男女共同参画推進条例の身近な使い方として、「ミス交通指導員」のタスキが新聞に出たとき「条例を知らないのか」と警察に抗議したら取りやめになったと言うことだった。これからどの地方も条例が制定されていくだろう。これからは、ただ、オジサンが好むだけのミスづくりには地方条例を上手につかって抗議、廃止することにしていこう。

たんぽぽ

テレビで伊豆大島の「椿まつり」の「ミス椿」を写していた。まだこんなことをしている、と少々残念。椿の島大島の宣伝なら、「ミス」でなく、おばさんパワーや健康と長寿の老人パワー等の方がいいのに！とからかいたくなる

▼長崎の女性グループ「ぼってん・うーまんの会」の機関紙に面白い記事が出ていた。長崎県五島列島の福江市で昨年10月「ミス観光」が発表された。同会が主催者になぜ18歳から25歳までの未婚と規定したかを聞いたら「一週間のイベントがあるため既婚は無理と判断した」と。「もっとハードな仕事を女性にこなしているよ」と、ぼってん・うーまん達は笑う。なぜ25歳までかは答えなし

▼給与を聞くと、賞金10万円、イベント毎に交通費、宿泊、日当。これではボランティア同様だ。これで年に10〜15回も仕事を休ませ、1年間の拘束とは。女性は軽い仕事だから休んでも平気だろうとの先入観ではないかと。ちなみに「ミス観光」は3人とも「職業ある女性」だそうだ▼「ミス」に限定し、「美女」を集めるのは誰のため？誰が喜ぶの？なぜ水着審査？と思っていたが、安い金で平気で職場を休ませることに何の疑問をもたない「主催者の体質」もわかった思い▼「ミスコン」問題は、近頃あまり話題にならないが、男性たちのミス好きは根強いものがあり、まだ健在だ。女たちも、しつこくモノ申したい。